

「グッド・ニュースを伝えよう！」

主任牧師 中島 聡

「ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かに恵みになる。」

ローマの信徒への手紙一〇・一二

清水ヶ丘教会は、宣教使命に「ミッション三七〇」を掲げています。「横浜市民三七〇万人のせめて一万分の一、新会堂がいつぱいになるぐらいの三七〇人を礼拝に招くことができるように」と目指していますが、二〇一九年度宣教計画に記載したとおり、厳しい状況にあります。日本基督教団の教会は社会よりも少子高齢化が加速しており、受洗者も年平均一名を割っている現状において礼拝の増加は無理があるのかもしれない。しかし、今年の四月一日現在で横浜市民は三七四万人に増加しています。よ

しんば減少していたとしても、教会は大切な使命である福音宣教を目指していかねばならないと示されます。では、どうすれば礼拝に招くことができるかです。

『妻のトリセツ』という本に対する反応ですが、「妻を理解することができ、家庭円満で有り難い」と、「夫はこのようにすべきと強制されて有り難迷惑」に分かれるそうです。『聖書』はまさに“人生のトリセツ”なのですが、世の人にどのように思われているのでしょうか。受け取る側の姿勢次第なのか、伝える私たちの側の心掛けも問われているように思います。一昔前になりませんが『バカの壁』（養老孟司 著）に「政治家は『人はどこまでバカか』、学者は『人はどこまで賢いか』を追求する」という言葉がありました。神様は「御自分を呼び求めるすべての人を豊かに恵みになる」と、恵みを用意して待つておられます。そのためにイエス・キリストは御身を十字架に釘打たれました。私たちはその「主の恵み、主の救い、永遠の命を受け取ってほしい！」とどこまでも、どこまでも願ひ、そのためにどうすれば良いか追求しているのでしょうか。

うれしいニュースが沢山あります。白百合光の子幼稚園の子どもたち、保護者の方々の子ども教会への繋がりが増えており、時に百名近

い礼拝もあり感謝です。幼児学園の時代から教会が園を守り、支えてきた証と実りです。今年五月一九日に白百合の創立六〇周年記念礼拝、卒園児による証、讃美が捧げられますので祈りに覚えてください。また、教会創立五〇年に作製された『源流』は来会者がじっと見て、うなずき、感心されています。御自身や知人を指さしている方も結構おられます。聖書を、信仰を目に見える形としてお伝えすることができる“宝物”であり、創立七五周年記念事業として新調されるのが楽しみです。また同記念事業として毎年編まれている清水ヶ丘教会オリジナルの聖句讃美歌を皆で讃美して、CDにして、教会を紹介する新たなツールを生み出す計画が進んでいます。さらに教会員だけではなく、教会を主会場に練習、定期コンサートを開催している合唱団にも讃美していただいで大きく人々を巻き込んでいく予定です。ゴスペルクワイア・K G C M―清水ヶ丘が誕生して五年。今年九月一六日の五周年記念コンサートを目標としてのワークショップが始まっており、お誘いするチャンスです。こどもニコニコレストランに新しいビジョンが与えられています。横浜聖句書道展の勉強会が新しく始まりました。「聖餐礼拝を春、秋の年二回にしましょう！」。礼拝の動画配信、教会紹介のプロモーションビデオ

の作成、まだまだあります。これまでの教会の取り組みに倣い続いて、「主の福音を宣べ伝えよう！」という祈りと願いが次々と芽生え、息吹いています。「三七〇」に向かう一步は確実に踏み出されています。

「すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです」(コリント四・一五)。

二〇一九年度の教会聖句に向かって歩み行く私たちを導かれるのは、全能の主です。

確かに厳しいと思われる現状もありますが、「主の山に備えあり」(創世記二三章)、「我が助けは天地を造られた主から来る」(詩編一二二)のです。この主に信頼し、「望み得ないのに、なおも望みつつ信じ」(ローマ四・一八)、新年度も祈り合わせ、力合わせてグッド・ニュースを伝えて参りましょう。ハレルヤ！